

4 授業評価を生かした学び合う授業づくり（事例4）

D教諭は、研究授業後に行った生徒及び同僚教師からの授業評価から、概ね良好な評価を得ましたが、課題として唯一指摘のあった「生徒同士が学び合う授業」づくりを改善の重点項目として掲げ、さらなる授業の充実を目指して取り組みました。

（1）学校全体での授業評価の取組

①試行での取組（平成15年度）

D教諭の勤務校では、授業の改善を図るために、平成15年度末に生徒による授業評価を試行的に実施しました。しかし、生徒に改善点を指摘させるような表記であったため、授業に対する一方的な要望が多く書かれ、教師からは授業評価に対する不安の声があがりました。

②授業評価票の改善（平成16年度）

平成15年度の授業評価の問題点を次のように分析しました。

- ①質問項目に授業者のマイナス面を問う内容が多かったこと。
- ②授業者に対する評価だけをさせたこと。

これらを踏まえて、次のように評価票を改善しました。

- ①質問項目に授業者のプラス面を問う内容を多く取り入れた。
- ②生徒自身に授業に対する取り組みを自己評価させた後、授業評価の質問に答えさせた。（※改善した評価票は、39ページに示したようなもの）

この結果、生徒が自らの授業への取組を振り返ったことで、改善につながる建設的な意見が増え、教師からの不安もほとんどなくなりました。現在では、評価結果を参考にして授業改善に役立てる教師が多くなりました。

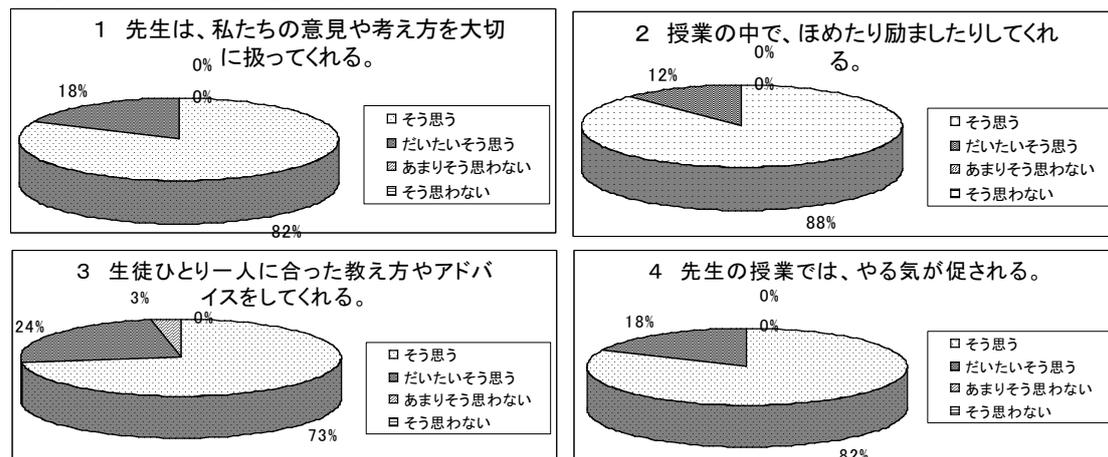
（2）D教諭の取組

D教諭は、これまでも生徒による授業評価の結果を踏まえ、前向きに授業改善に取り組んできました。しかし、本調査研究を機会に、授業力のさらなる向上を目指し、授業改善に取り組みました。

①課題の設定（6月の公開授業）

D教諭は、まず、普段どおりの授業を行った後に、生徒による授業評価を実施しました。これを基に、自身のこれまでの授業改善の取組の確認と、今年度における取組の課題を設定しました。

6月 生徒による授業評価の結果



上記のグラフから、D教諭の授業に対する生徒の評価は良好であることが読み取れます。また、同僚教師からも同様に高い評価が得られましたが、数名の同僚からは改善点として次のような指摘がありました。

- ①科目の特性上、教師の説明が多くなるのはやむを得ないが、**生徒に考えさせる場面**がもう少しあると良い。
- ②考えに行き詰っている生徒がいたので、**グループ学習**を取り入れて**生徒同士による話し合い**の場を設けると良い。

これらのことは、D教諭も以前から取り入れたいと考えていたことでした。D教諭は、これを良い機会と捉え、「生徒同士が学び合う授業」づくりを目指した授業改善に取り組みました。

②改善に向けた取組（11月の公開授業）

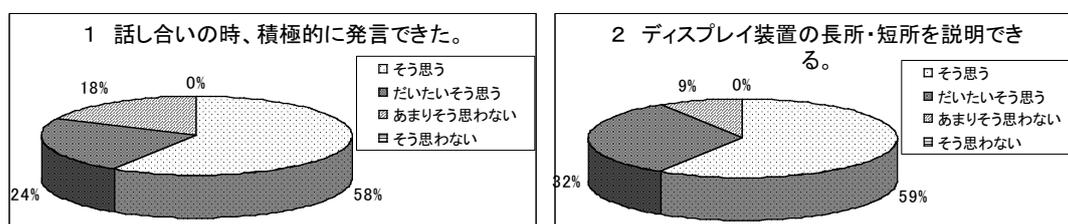
教材について口頭で説明するだけでなく、本時の教材である各種ディスプレイ装置の実物を提示したり、グループ活動を取り入れた話し合いをさせたりしました。

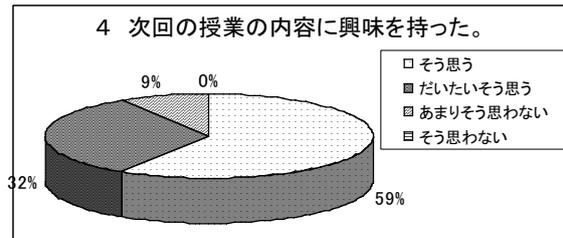
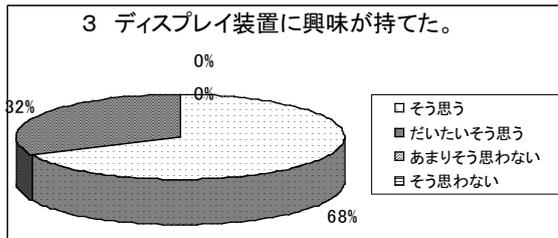


グループ学習での話し合いの様子

③公開授業における授業評価（11月）

11月 生徒による授業評価の結果





上記のグラフから、グループ活動などを取り入れた取組の成果がうかがえます。11月の公開授業についてワークショップ型授業研究会を行い、同僚教師からも授業評価を受けたところ、生徒からの授業評価と同様の成果が、次のように指摘されました。

11月の公開授業における同僚教師による授業評価
(振り返りシートに張り出された付箋の記入例)「電子情報技術」(「出力装置」の単元)

	学びが成立している点、参考になる点	気になったこと、授業者に聞きたいこと
導入	前時の復習では、ほとんどの生徒がノートを見て答えている。	前時の学習内容の確認では、本時の学習内容との関連性に気付かせる発問を取り入れると良い。
展開	ほとんどの生徒が話し合いに参加しており、他の生徒の意見に耳を傾けている。 代表者の発表の際、傍観者が少なかった。	話し合いの時間が長い割に発表時間が短かく、まとめの一部しか発表できない生徒はやや不満そう。
まとめ	まとめの学習場面でも、ほとんどの生徒が関心を持って取り組んでいる。 発問に対する生徒の答えや反応から、本時の内容を概ね理解できたと判断できる。	まとめの時間が不足したため、気忙しい。余裕を持って終了できると良い。

取組の成果

- 具体物の提示や、グループによる話し合いによって、生徒が考える場面が増えた。
- グループ学習を取り入れたことで、生徒は話し合い活動に意欲的に取り組み、考えを広めたり深めたりしている。

新たな課題

- 生徒による話し合いの中から、「気付きの場面」を引き出すための工夫。
- 効果的な話し合いをさせるためのリーダーへの事前指導。

D教諭は、この評価結果をさらなる改善に生かすべく、新たな課題への取組として、様々なグループ学習の手法について研究に取り組んでいます。

ポイント

高等学校の多くの教師は、自身が高校時代に受けた授業をモデルとして、講義を主体とした授業を行うことが多いのではないのでしょうか。しかし、時代の変化とともに生徒の求める学習スタイルは多様化しています。生徒や同僚教師による授業評価から得られた改善の視点を生かし、生徒の実態に合わせて授業に工夫改善を加え、分かりやすい授業や生徒が学び合う授業を提供することが大切です。